

(様式1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	綾部市立吉美小学校							校長名	塩尻 竹弘
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	児童数	137名
学級数	1	1	1	1	1	1	3		
事業担当教員名	倉橋 七緒								
① 中学校区で 目指す子ども像	<p>ブロック教育目標：自立と貢献～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成～ ブロック目指す子ども像：夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 綾中ブロックの子 夢をもち (将来を見据え、主体的に学び表現する子) 【展望する力】 仲間とともに (豊かな心をもち、自他ともに大切にできる子) 【つながる力】 未来を切り拓く (心身ともに健康で、実践力と行動力のある子) 【挑戦する力】 綾中ブロックの子 (誇りと郷土愛をもち、地域とかかわる子) 【貢献する力】</p> <ul style="list-style-type: none">認知能力、非認知能力、メタ認知をバランスよく伸ばしている。自身の学習を自分で準備、実行、完了することのできる力と意思を持ち、自律的な学びを実現することができる。課題解決的に学び、課題に対して意欲を持って取り組むことができる。自分の弱みを見せて、本音で語り合うことができる。下級生のモデルとして自身の姿をふり返り、上級生をモデルとしてより良い生き方を考え、行動できる。自分たちの学びや行動が身近な人や社会を変えることができるという自己有用感に裏付けられた自尊感情が育っている。自己の理解を深め、夢や希望をもって、将来の生き方や生活を考え、自ら学習に向かうことができる。								
② 目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none">確かな学力を身に付けることができる。書いたことの音読から、メモだけの発表、即興的な対話へとレベルアップできる。課題解決の場面で、理由や根拠を明らかにして自分の思いを語るすることができる。低学年から積み上げてきた伝え方、語彙などを生かして、特別活動の場面で、相手意識のある伝え方で自分の考えを表現することができる。自分自身のことをメタ認知的に捉えることができる。相手の思いをしっかりと聞くことができる。比較、分類しながら、折り合いをつけた話し合いを行う。単元のゴールに向けて、自分たちでどう迫るかを考えることができる。将来を見据え、主体的に学び表現することができる。								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	<ul style="list-style-type: none">これまでの学力テストに関する問題から、自分の意見を含めた条件作文(国語)や、図や式、言葉を一体化させて説明する問題(算数)等の、説明する力に課題が見られる。相手意識をした伝え方や論理的な説明の仕方ができる児童が少ない。また、人の発表に興味を持って聴くことができる児童も少ないため、学びを深め合うまでいかない。自分の考えを持ち、理由をもとに交流はできているが、自分の考えを発表するだけの場になっており、答えを導く過程を大切にしていこうとよりよい解決の方法を考えられるような学びの場になっていない。一部の児童が自分の考えと友達のことをつなげて考えていこうとしているが、全体として学びを再構築していく意識が低い。学校生活の中で、場面を把握して自分ができるべき行動ができる児童もいるが、自分の思いを優先した行動をしてしまう児童もいる。課題に対して、自分の考えを持つまでの知識・技能が十分に身に付いておらず、自力解決することが難しい児童がいる。自分の行動や思考をふり返る力が弱く、同じ問題を繰り返し間違えたり、友達とトラブルになったりする。								

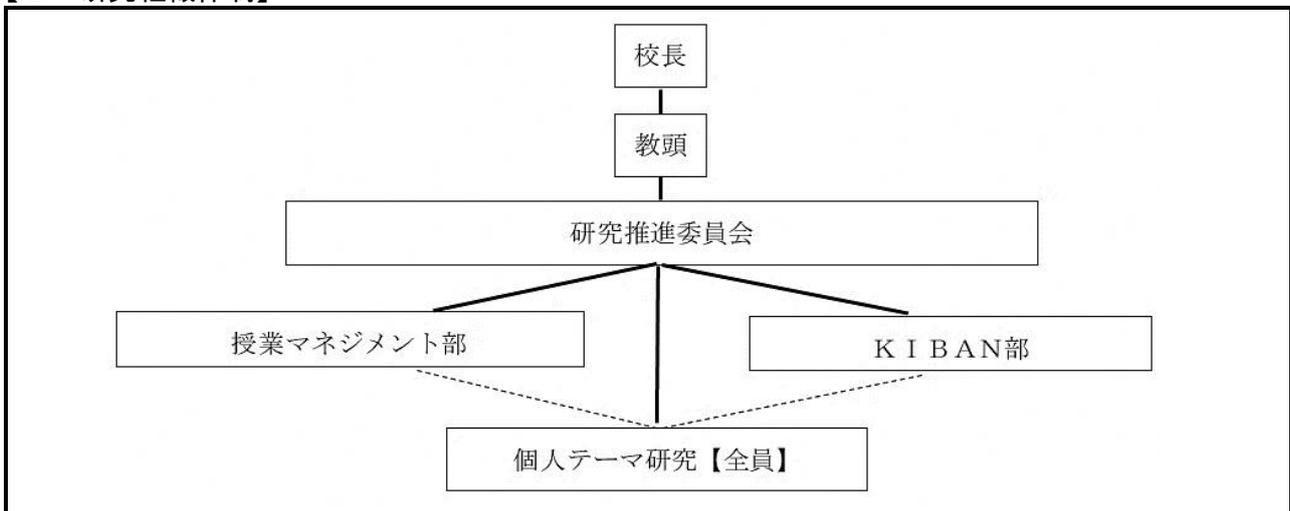
<p>④ 目指す子ども像に達するための仮説</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「思考→対話→発見→再構築」のある授業づくりを中心に行っていくことで、自分の考えだけでなく、様々な考えがあることの面白さや考えを深める楽しさを実感させ、学び合いによる理解の深まりを生み出せるのではないかな。 ・ 分からない問題や課題にであったときに、粘り強く向き合っていることで、自主学習等に取り組んだり、解決に向かって行動したりして、よりよい問題解決に向かうのではないかな。 ・ 自分の考えだけでなく他の人の視点も踏まえた考えを持って行動することで、生活面では人間関係のトラブルが減ったり、学習面では集団として学びが深まったりするのではないかな。 ・ 学級活動等の特別活動を中心に、相手意識を持った話し合いや対話を繰り返すことで、自分に出来ることや行動の改善等につなげて考え、取り組んでいけるのではないかな。 ・ 振り返りの時間を大切にすることで、自分の課題や理解度を振り返り、今の自分に必要な学習や活動を考えられるのではないかな。また、そのような考えが、次の学びへの意欲となり、主体的な学びへとつながるのではないかな。
---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和5年10月2日現在

【1 研究主題】

「よりよい問題解決ができる児童の育成」
 — 思考→対話→発見→再構築のある授業づくりを通して —

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

【授業マネジメント部】

- ・ 「思考→対話→発見→再構築」のある授業づくりを中心とした算数の授業の流れの考案
- ・ 振り返りの視点の明示（振り返りの内容を充実させていく）
- ・ よりよい問題解決ができる児童の姿を「見える化」し、教職員に発信する。
- ・ 授業実践を検証しながら、対話的に学ぶ授業づくりのモデルを構築する。

（ ※ 『算数科 論理的思考力を育む授業（2022）』を軸にして加えていく。 ）

【KIBAN部】

- ・ 特活的な話し合い（表現力）を高める活動の公開（なないろタイム）
- ・ 『吉美小学校で身に付けさせたい非認知能力』の内容を見直すとともに、特別活動につなげて実践・検証していく。行事や取組ごとに振り返りを行い、その結果を教職員に発信したりする。
- ・ 「人を大切にする・助け合う・学び合う姿」の掲示の仕方等を考案し、作成する。
- ・ 論理的な思考力向上を目指した取組（なないろタイム）

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
4～6	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	
4～6	31	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。		
4～6	32	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。		
4～6	33	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。		

* 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

<p>個に応じた具体的な指導・支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える場面（自力思考）を大切にし、自分で考え取り組む力を高めていく。 ・課題や単元の終わりに、なぜ達成できたのか、自分自身を振り返る機会をつくる。また、できなかったときは間違えた原因を考えさせる。 ・直接的なアドバイスではなく、前時や学習のあしあとから自分で考えられるように声をかけていく。 ・視点を与えてふり返らせたり、見通しを持たせて考えさせたりする。 ・自分の考えを持つことを、低学年から身に付けさせていく。
<p>集団としての具体的な指導・支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決し、まとめ直す機会を多く設ける。（再構築） ・学力差、ばらつきがあるため、基礎的などところと発展的などところを適切に織り交ぜて授業を展開していく。 ・他人任せにせず、自己（1人）でしなければならない、1人でできる場面を意図的に作っていく。 ・エンカウンターの手法を用いる等、学級の雰囲気を高めていくことで、自己有用感が高まり、横のつながりが強くなる。その中で自分を出していくことができるようにしていく。 ・自力解決の時に意欲的に取り組めるようにして、自己調整したらできたという経験を増やしていく。 ・難しい問題に向かわせることで、自己調整する必要性を感じさせたり、振り返ってまとめる時間で学習を見つめ直したりできるようにしていく。 ・低学年から自分の考えを表出することや、話し合うことでよりよい考えを導き出すことができるよう日々の授業の中で積み重ねていく。自分の考えを出せる環境づくりをしていく。 ・自己調整できるよう、単元を構成したり授業を展開していったりする。（課題の提示、思考→対話→発見→再構築の流れのある授業）

【8 仮説の修正】

<ul style="list-style-type: none"> ・「自己調整」に関する系統性のある指導改善の方向性や個に応じた具体的な手立てから、「自己調整」に関わって目指していく児童像を整理することが必要ではないか。

【9 具体的な取組内容の修正】

<p>○KIBAN部が非認知能力に関して研修を行い、目指す児童像と研究の方向性を構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己調整」に関わる目指す児童像について ・非認知に関わるアンケートの実施（全学年） ・散布図の分析（評価テスト×非認知能力（実施した2回分の散布図の分析））

【10 児童の変容（普段の様子から）】

○「思考→対話→発見→再構築」のある授業づくりの視点から

- ・単元のゴールを提示し、課題の見通しを持たせることを大切にすることで、主体的に答えを導いていこうとする児童の姿が見られるようになった。
- ・児童の生活に関わるものや具体物、半具体物等の教具を用いることで、児童の学習への関心が高くなり、学習に取り組む態度が良くなった。また、課題にも意欲的に取り組む児童の姿が見られるようになった。
- ・教科書の手順通りだけでなく、児童が自分で解を導く方法を考える時間を大切にすることで、生き生きと前向きに問題に向かう姿が見られた。
- ・思考した後に友達との対話の時間を意図的に持たせることで、他の児童へ自分の言葉で考えを伝えられる児童が増えた。
- ・教師の発問や課題を、学び合いが生まれるものにしていくことで、必然的に自分から話し合い、解を導こうとする姿が見られる。問いの提示の仕方を工夫することで、児童がより深く話そうとする姿が見られるようになってきた。
- ・授業の終わりに確かめ問題（授業の確認問題）を行うことで、児童自身がその授業での学びを客観的に捉えることができることで、学びが明確になるとともに、指導者が授業を振り返る指標となり、授業改善にもつながった。

○分からない問題や課題にであったときの粘り強く向き合う姿の視点から

- ・既習事項を活かして問題解決を図ろうとする児童が育ってきた。（特に「見通し」の場面において）
- ・無解答ではなく、ほとんどの児童がどのような問題に対しても、自分の考えを書こうとすることができるようになってきている。
- ・本時では分からなくても、単元末の復習や学年末の課題等で粘り強く問題に取り組むことで、できるようになったことに喜びを感じ、達成感を味わいながら学習を進めていく児童の姿が見られるようになった。

○学習面や生活面での集団の中で学ぶ姿の視点から

- ・全体交流の中で、理解できていない児童が黙るのではなく、学び合いたいと思う気持ちや、学級の雰囲気等から「分からない」と意思表示することで、その児童に分かるように説明しようとする姿が見られる。また、理解してもらえるまでいろいろな言い方で説明をする児童の姿も見られる。

○学級活動等の特別活動の視点から

- ・朝の会や15分間の学習時間等の取組を継続することにより、「考えを持つ力」や「考えを伝える力」が少しずつ育ってきた。
- ・スピーチ活動や国語科の授業等で、自分の考えを話す機会を意図的に持つことで、発表したり話したりすることに抵抗なく取り組むことができるようになってきた。

○振り返りの時間の視点から

- ・振り返りに関わる内容について、校内の研究組織で進めていくことにより、児童が授業の学びを書くだけでなく、友達の考えから気付いたことも含めて振り返りを書くことができるようになってきた。
- ・学習内容がどんな時に使えるかを考え、学習だけでなく生活にも結び付けて振り返りを書くことができるようになってきている。また、他教科の学習や遊びの中でも学習したことを考えて使っている児童の姿も見られた。

【11 2年次の研究構想】

【目指す児童の姿】

○低学年

- ・ 自己理解ができる児童
（取組の重点）学習の振り返り、自分や友達の良いところ見つけ

○中学年

- ・ 自己調整の方略を知っている児童
（取組の重点）「振り返り」と「めあて」をつなげる活動（集団・個人）

○高学年

- ・ 自立的に学ぶことができる児童
（取組の重点）学習課題や学習方法を選択して取り組む活動